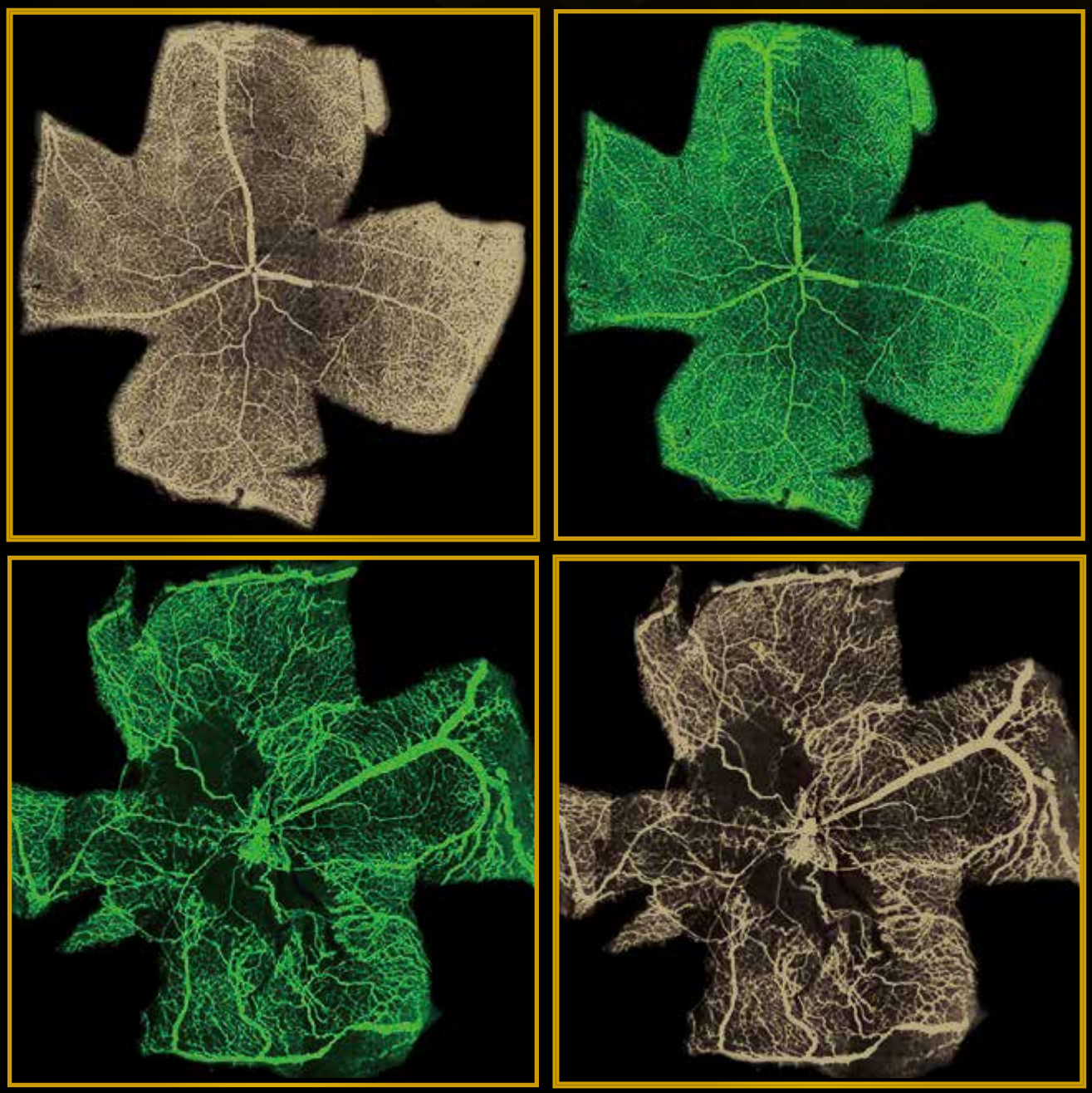
聖マリアンナ医科大学　眼科学教室

DEPARTMENT OF OPHTHALMOLOGY
St. MARIANNA UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE

ANNUAL REPORT 2019



目次 Contents

04 ご挨拶
06 診療案内
13 新入局者紹介
15 研究紹介
19 教育活動
20 主催学会
22 学会発表
26 医局活動
29 関連病院紹介
33 同門会だより
35 業績
40 編集後記

ご挨拶

巻頭言 Introduction

聖マリアンナ医科大学眼科学教室
教授　　高木　均

昨年スタートしました年次報告ですが、聖マリアンナ医科大学眼科学教室の講座代表を務め５年目、2018 年度の報告をしたいと思います。まず、聖マリアンナ医科大学眼科同門会をはじめ多くの方々からのご支援・ご助言に心から感謝申し上げます。

2018 年の聖マリアンナ医大眼科は引き続き活気ある教室の雰囲気のもと安定した実績を継続できたと感じております。また、５月には前年度で特任教授を終了された上野聰樹前教授が名誉教授を任ぜられました。先生の当大学へのご貢献がみとめられ、また、教室にとっても大変名誉なことであり、我々一同大変喜ばしく感じております。以下に 2018 年度の診療・教育・研究における活動をご報告いたします。

診療面では北岡康史外来医長、向後二郎病棟医長 のもと、外来では数年にわたる安定した収益を維持し、病棟では昨年度を大きく上回る手術件数を達成いたしました。これらは、従来より行ってきた近隣の先生方との病診連携のさらなる充実の賜であると認識しております。1 月の第 50 回神奈川県眼科臨床談話会、５月の第９回聖マリアンナ眼科臨床フォーラム、９月の第４回聖マリアンナ眼科シンポジウムは盛況の内に開催することができました。また、５月には第 10 回神奈川眼科学会を主幹校として無事主催することができました。先生方との交流や当教室のアピールに役立ったものと考えております。今後も高い診療レベルを維持することとともに近隣の先生方との病診連携を第一に診療を行って参りたいと思っております。網膜剥離・外傷など緊急症例に 対しましても全日対応しておりますので、患者様のご紹介を引き続きよろしくお願い申し上げます。

教育面では、徳田直人教育担当によるカンファレンスの内容整備に加え、昨年度より開始しこの年度は４回行われました眼科疾患研究会も軌道に乗って参りました。若手の新進気鋭の臨床や基礎研究者を招いての講演会ですが、我々の研究マインドを活性化させてくれるよい機会となっております。医療技術ばかりでなく探究心を持って診療を学ぶことが若手医師にとっては何よりも伸びる力になると考えます。このような考えのもと今後もさらに充実させていきたいと考えています。

また、研修早期から若手医師に種々執刀の機会をなるべく与えるよう、患者様の不利益を来さない配慮の中行っております。この教育プログラムにより、白内障手術を早期より完遂できる医師がどんどん育成できており、先に述べた手術件数の増加にもつながっております。また、教育システムの充実に力を入れてきた結果、2018 年度の新入局者は 5 名を確保しています。

研究面では、北岡康史准教授のオートファジーに関連する分子神経学分野での研究が順調に成果をあげています。私の専門とする糖尿病モデルでの検討もなされ、ますますの発展を期待しているところです。臨床研究では向後二郎講師を中心に、硝子体手術やメディカルレチナの研究成果が実を結んでいます。新しい黄斑手術の提案や抗ＶＥＧＦ薬による黄斑浮腫への治療評価法が論文化されました。内外にインパクトを与えていることは、彼らがシンポジストや教育講演を多くの学会でおこなっていることにも明確に表れています。

このように、手術件数・診療実績・研究報告など当該年度の目標としたところはほぼ満足できる程度に達成できていると考えます。よい点ばかり申し上げましたが、少し気がかりな点もあります。臨床・研究両面において長年貢献されてきた中堅の先生が複数退職された年度でもありました。新入局の先生はじめ若手の先生がどんどん実績をあげており、これらの先生の中から教室の屋台骨となってくれる指導者がさらに育つことが今後不可欠なことと考えます。さらに一層、気を引き締めて診療・教育・研究に邁進していく所存です。

今後とも皆様からご指導・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

高木 均

診療案内 Medical services

川崎市は横に長い市です。当院がある宮前区からJR川崎駅がある川崎区までは実はかなりの距離があり、そこには100万人を超える人々が生活しています。「最寄りの駅」という表現にふさわしい駅がなく、遠方からお越しいただく患者さまからは、「交通の便が悪い」とお叱りを頂くこともあります。しかし交通の便が悪いからこそ、当院がある宮前区をはじめ、近隣の多摩区、麻生区、高津区の患者さまには特に必要とされる病院であるべきなのではないかと思います。それゆえ、近隣の先生方との病診連携は極めて重要であり、日頃先生方からのご紹介は大変ありがたく感謝しております。

当院では各医療機関の先生方から、あらかじめ患者さまの情報をメディカルサポートセンターにFAXをしていただき、カルテを準備し外来予約を取ることが可能です。専用のFAX用紙（FAX番号も添付）は聖マリアンナ医科大学病院ホームページからダウンロードできます。初診受付は月曜から土曜日まで午前8:30から11:00となっております。現在土曜日も毎週初診を受け付けております。また、上記の時間外でも緊急性の高い症例につきましては病院外来にお電話いただけましたら随時対応いたします。

さて、眼科外来診療においてはClaioシステムを導入しており、既に完全電子カルテとなっております。OCT画像やハイデルベルグスペクトラリス画像も電子カルテ上に反映されるので、患者さまへの病状説明にも役に立っており、「眼に見える医療」を実践しております。

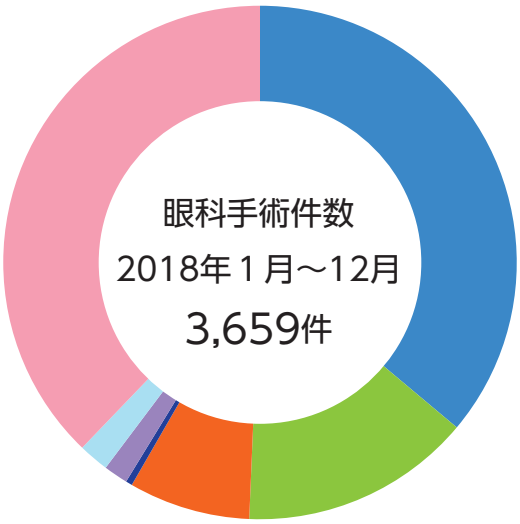
当院の手術対象疾患の特色として、白内障以外に網膜硝子体疾患と緑内障手術の件数が多いことが挙げられます。網膜硝子体疾患としては網膜剥離をはじめ、糖尿病網膜症、網膜前膜、黄斑円孔、網膜分離症など様々な疾患に対応させていただいております。緑内障手術については新生児から後期高齢者まですべての年齢層とすべての緑内障病型に対応できていると思います。また手術のみならずメディカルレチナの領域（黄斑変性、網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫など）でも造影検査から抗VEGF薬投与まで積極的に行っております。

このように、当院眼科では特定機能病院として質の高い医療、手術を心掛け、そしてご紹介元の医療機関さまにお戻しすることを基本に、患者さまの希望も尊重しつつ対応してまいります。今後とも患者さまを当院眼科にご紹介いただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

●眼科診療実績

	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度
外来患者数（人）	40,156	35,932	32,757	29,457	29,273	29,264
初診患者数（人）	4,459	4,341	4,237	4,199	4,057	3,942
再診患者数（人）	35,697	31,591	28,520	25,258	25,216	25,322
入院患者数（人）	1,636	1,554	1,615	1,544	1,559	1,557

●眼科手術件数



- 白内障手術……1,321件
- 網膜硝子体手術……533件
- 緑内障手術……280件
- 斜視手術……15件
- 外眼部手術……56件
- その他……70件
- 抗VEGF薬硝子体注射……1,384件

合計　3,659件

●眼科外来担当医表（平成 30 年度）

2019.3 現在

		月	火	水	木	金	土
午前	教授外来		高木　均	高木　均 (第1、3、4、5週)			
午前	初診外来	向後二郎	海老原紘子	佐瀬佳奈	北岡康史	徳田直人	当番制
午前	再診外来	中村芽衣子 山田雄介 原　飛鳥 大坪瑞季	小島　香 重城達哉 関根伶生 山田雄介 ◎造影外来 重城達哉	北岡康史 向後二郎 畑　真由美 塚原千広 豊田泰大(AM) 原　飛鳥 関根伶生	中村芽衣子 佐瀬佳奈 畑　真由美(AM) 塚原千広 豊田泰大(AM) 藤田直輝	海老原紘子 小島　香 大坪瑞季 藤田直輝 山田雄介	当番制
午後	◎特殊外来	◎緑内障外来 徳田直人 小島　香 塚本彩香 豊田泰大	◎ NCU 外来 重城達哉 海老原紘子	◎緑内障外来 北岡康史 ◎斜視弱視外来 畑　真由美	◎ CL外来(第2週) 松澤亜紀子 ◎斜視弱視外来 畑　真由美	豊田泰大(PM) ◎ NCU 外来 海老原紘子	

各部長より

外来長 より一言

月曜から土曜まで初診医は交代で行っております。再診を含め、外来待ち時間をなるべく短縮できるよう努力しております。具体的にはある時期の一週間の全患者さまの待ち時間を担当医別に集計し、グラフ化し、担当医にフィードバックしております。長い待ち時間が発生した担当医は、今後の改善点を文章にして提出を求められます。

大学病院は教育機関でもありますので、医学生や研修医の見学がございます。ご協力いただける患者さまには研修医の診察もお願いしております。そのような場合は、上級医のチェックが必ず入る体制となっており患者さまの不利益がないように配慮しております。

北岡　康史

病棟長 より一言

昨今、白内障のみならず網膜硝子体疾患や緑内障でも日帰り手術が多く行われるようになっています。白内障の低侵襲化は今に始まったことではありませんが、網膜硝子体手術（MIVS）、緑内障手術（MIGS）も低侵襲化が進み、当院でも積極的にこのような手術を行っております。しかし、当院では上記のほぼすべての疾患について患者さまに入院していただき管理させていただいております。この理由としては、学生や若手医師への医学教育のためということもありますが、それよりも術後入院管理をすることにより術後早期の消炎、感染症のリスクを回避するといった点で明らかに優れているからです。論文的な根拠があるわけではございませんが、これは間違いないことではないかと思っています。以前自分が指導を受けていた教官から「術後患者は勝手に治っていく。その邪魔をしないことは重要だが、治っていくスピードを速くすることも大切」と教えていただいたことを思い出します。私は今でも日々入院患者さまの眼を診ながらそのことを考えながら術後管理をしております。このような地道な診察を続けることで 1 歩、そしてさらにもう 1 歩先が見通す力が培われるのではないかと思っております。

2019 年度から私は再度病棟長を任されることになりました。術後経過を診ることについては入局当初の 20 年前と何ら変わりないように思っています。このような地道というか泥臭い方法は時代遅れかもしれませんが、本当の意味で患者さまを最低日数で退院させることの大切さを学生や若手医師に伝えることも病棟長としての使命と考え、頑張らなければと思う今日この頃です。患者さまはもちろん、ご紹介頂きました先生方の期待に沿えるよう頑張ってまいりますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

徳田　直人

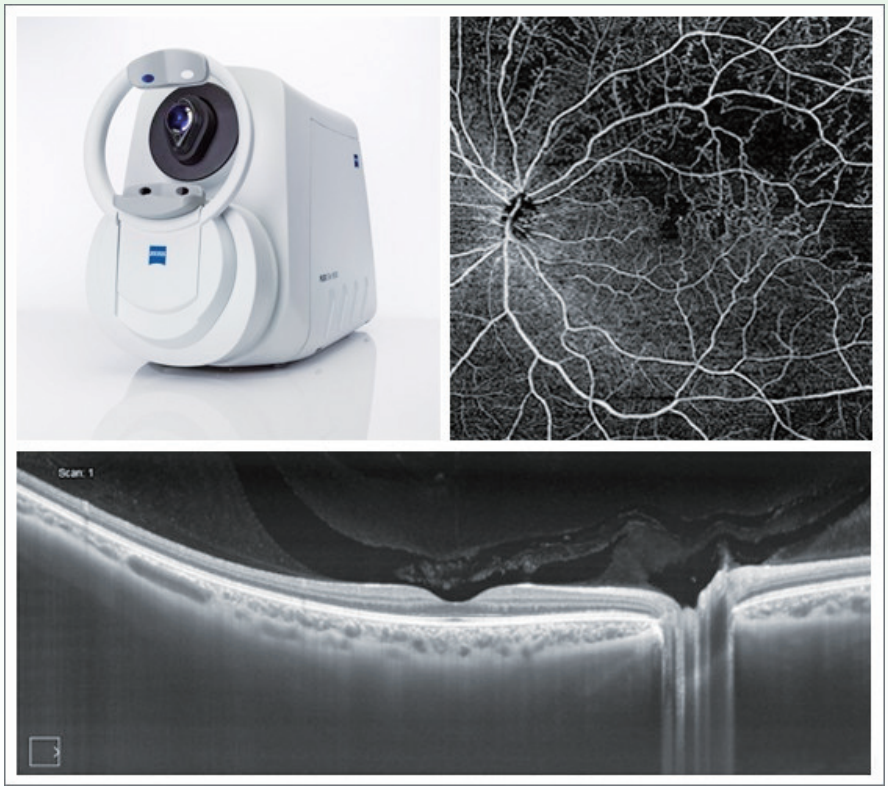
専門外来担当医師より

網膜硝子体外来

向後　二郎

本年度より Zeiss 社の OCT angiography である PLEX Elite 900 が導入されました。広角の SS-OCT 画像や OCTA 画像が短時間で撮影が可能になり、診断や治療の幅が広がりました。特に糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞症においてフルオレセイン造影検査をせずとも広範囲な無血管領域が撮影できることにより、患者さんの負担も大きく減らすことができるようになりました（ORT さんの仕事量は急上昇で申し訳ないですが・・・）

硝子体手術に関しては高木教授がご専門であるため最近では減ってきた無治療の増殖糖尿病網膜症の症例も多くご紹介いただいております。当院では全例 27G システムで行っており安全な手術を心がけております。連日のように来院される網膜剥離症例に関しても例外なく緊急で即座に対応しております。中堅の先生が異動や退職で戦力ダウンしておりますので後任の指導に奮闘中であります。

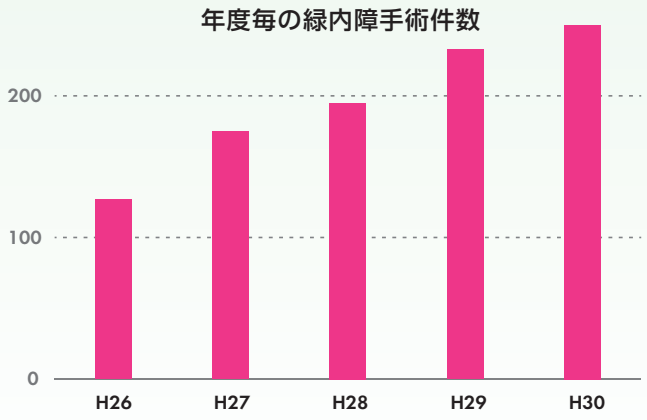


緑内障外来

徳田 直人

緑内障外来は、毎週月曜の午前・午後（徳田・小島・塚本・豊田）と水曜の午前（北岡准教授）に行っております。原則として手術が必要と思われる重症な患者さまや、厳重な術後管理が必要な患者さまを対象に行っておりますが、診断に苦慮する症例や、他施設で緑内障と診断されたものの診断に疑問をお持ちの患者さまへの対応（セカンドオピニオン）もさせていただいております。毎週たくさんの紹介患者さまに対応するためには、なるべく病状が安定している患者さまを紹介元、または近隣の施設に紹介するよう心がけておりますが、緑内障という疾患がまさに「超」がつくほどの慢性疾患であるため、完全に次回予約なしの状態にはしづらいケースも多々ございます。そのため緑内障外来では病状や患者さまのお気持ち、ご希望を十分考慮し、半年後または１年後の予約を取らせて頂くことがあります。その際の診察結果と治療方針などを経過報告書や診療情報提供書により紹介元の先生にお伝えして健全な病診連携を行うようにしております。なおスタッフに小島香助教、豊田泰大任期付き助教が加わり、今後さらに多くの患者さまへの対応が可能になったかと思いますのでご紹介よろしくお願いいたします。

手術治療については低侵襲緑内障手術（Minimally Invasive Glaucoma Surgery:MIGS）を選択することが多くなり、白内障手術と一緒に MIGS を行うことが増え、緑内障手術件数も徐々に増えつつあります。その他、線維柱帯切除術、線維柱帯切開術の他、緑内障しチューブシャント手術（プレートのあるもの、ないもの）も症例に応じて選択しております。



緑内障外来は、受診された患者さますべてが診察後に安心して家路につくことが出来る専門外来として、川崎地区はもちろんのこと、さらに広い範囲の緑内障でお困りの患者さまにも対応できるよう頑張ってまいりますので、今後ともご紹介のほど、よろしくお願いいたします。

斜視弱視外来

畑 真由美

斜視弱視外来では、屈折異常による弱視、斜視弱視、器質的疾患による斜視などの診断や治療を行っています。

弱視の治療では眼鏡装用や定期的な通院が必要になるため、患児やその家族とのコミュニケーションが重要になってきます。特にアイパッチや訓練が必要な場合には治療の必要性を理解し、家族に協力してもらうことが必要不可欠となりますので、家族への説明をしっかり行うように心がけています。

斜視の治療ではプリズム眼鏡や手術等ありますが、各個人によって整容的もしくは複視改善など治療目的が異なります。当たり前のことかもしれませんが、生活スタイルや困っていることが何なのかを聞き、一人一人にあった治療方針を考えています。

原因として全身的な疾患が疑われた場合には、血液検査、CT、MRI などの検査を行いながら、他科との連携も行っていきます。

また、他病院にも見学に行かせて頂き、日々の診療に生かせるように努めております。

今後も各個人に対してより最善の治療を提供していけるように努めてまいります。

NICU 外来

海老原 紘子

未熟児網膜症の診察を中心にNICU入院中の患者様の診療にあたっています。新生児科の治療技術の進歩に伴い、未熟児網膜症としてレーザー加療などの眼科の治療介入の必要な患者さまの数も増加傾向にある事を実感しております。

NICU という特殊な環境下で、ご家族は不安な思いを抱えながら面会に来られています。母としての自分自身の実体験を元に、少しでも患者さま家族に寄り添った診療ができればと、考えております。今後も北岡先生、向後先生のご指導いただきながら、日々精進して参る所存ですので、大学内外より変わらぬご指導賜りますようお願い申し上げます。

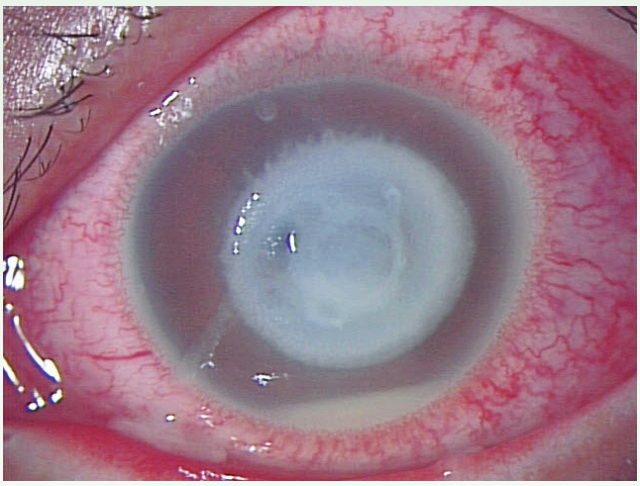
角膜、CL

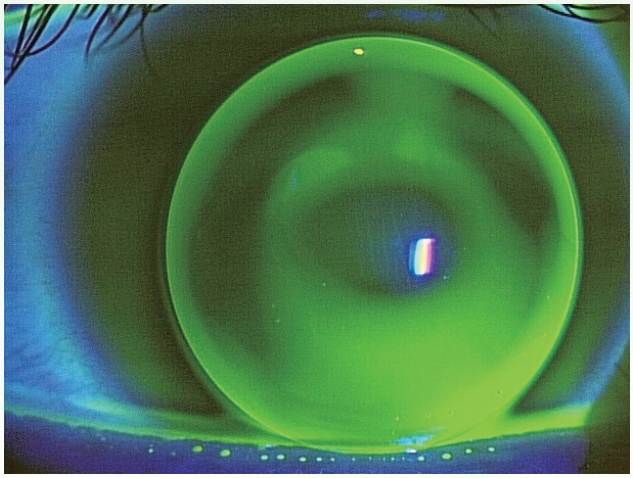
松澤 亜紀子

角膜疾患は、感染症、遺伝性、自己免疫性、変性疾患など様々な原因で生じるため、治療も点眼薬を中心とした薬物治療から角膜移植を含めた外科的治療まで幅広く対応する必要があります。当院の角膜外来においても角膜感染症やアレルギー性疾患、自己免疫性疾患に対する薬物治療を中心に行っており、外科的な治療に関しては、川崎市立多摩病院と連携し角膜穿孔や水疱性角膜症に対する全層移植から角膜内皮移植を含めた角膜移植や羊膜移植に対応しております。

コンタクトレンズ外来では、円錐角膜やペルーシド角膜変性症などの角膜形状異常のある疾患や角膜移植術後の不正乱視など眼鏡では矯正できないような症例に対して、通常の球面レンズだけでなく多段階カーブのレンズなど特殊なハードコンタクトレンズの処方を行っております。

研究に関しては、前眼部光干渉断層を用いた角膜移植前後の角膜形状変化の検討やコンタクトレンズ装用に伴う角膜上皮バリアー機能障害についての検討など様々な臨床研究を行い、日常臨床に役立つ情報提供に努めております。また、全国のコンタクトレンズ診療のエキスパートの先生方と連携し、若い先生方やコメディカルの方に基礎から応用までコンタクトレンズ診療の知識を広めていく活動も行っております。





新入局者紹介 New member introduction

任期付助教
大坪 瑞季

入局させていただいてから１年が経ちました。

振り返ると、朝の診察、外来、手術、当直と、多くのことを経験させていただき、充実した日々だったように思います。日々の診療の中で自身の未熟さを痛感する毎日ですが、有難いことに、上級医の先生方のご指導のもと、多くのことを学ばせていただいております。

ご迷惑をおかけすることも多いかと存じますが、より一層精進して参りますので、今後もご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

大学院生
関根 伶生

今年度より聖マリアンナ医科大学眼科学教室に入局致しました関根伶生と申します。現在は大学院へ進学し糖尿病網膜症を中心とする網膜硝子体疾患に関する勉強や学会活動、研究活動に携わらせていただいております。また診療においても診療助手として日々診療に携わらせていただいております。

入局して１年間が経ちましたが、この１年は怒涛のように過ぎ去った一年と感じました。診療においては上級医に確認しながらの日々の診療がとても勉強になり、わからないことが少しでも減らせるように夜は勉強をして過ごす毎日でした。またその合間を見つけて大学院での臨床研究の立ち上げや学会活動の準備など非常に実になった１年ではなかったかと思います。

来年度からは東京大学　先端科学技術研究センターに国内留学させていただきますので研究により一層力を入れて頑張りたいと思っております。至らないところもあるとは思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

任期付助教
原 飛鳥

2018 年度より聖マリアンナ医科大学眼科学教室に入局致しました原飛鳥と申します。他大学出身で研修病院は地元大阪の病院でしたので、入局してから新しい環境になり、最初はうまくやっていけるのかと緊張や不安でいっぱいでした。しかし、眼科学教室の皆様は素敵な方々ばかりで、上級医の先生には優しく熱心にご指導いただき、頼もしい同期にも支えられ、外来・手術ともに多くの症例を経験させていただき充実した毎日を過ごしています。温かく迎え入れて頂き本当に感謝しております。

診療ではわからないことも多く悩むことも沢山ありますが、今後も少しでも多くのことを吸収できるよう励みたいと思います。これからも精一杯努力してまいりますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

大学院生

藤田 直輝

2018 年度より眼科学教室に入局させていただきました、藤田直輝と申します。

『地域の眼医者さん』として働く母の背中を見て育ち、いつしかその姿に憧れを持ったのが医師を目指すきっかけでした。また幼い頃より色の見え方に興味を抱き、その不思議に少しでも近づきたいと考え眼科へ思い焦がれる日々が続きました。

現在は念願の入局を果たし、診療助手として日々外来や手術の研鑽を積んでおります。また大学院分子神経科学コースに入学し北岡先生はじめ多くの先生のご指導の下、基礎医学の研究も行わせていただいております。

入局し右も左も分からない不安ばかりな状態からのスタートでしたが、どの先生も気にかけてくださり手厚いご指導の下、何とか 1 年間やってくることが出来ました。

まだまだ未熟な部分ばかりで至らない点も多くご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、精一杯頑張りますので今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

任期付助教

山田 雄介

聖マリアンナ医科大学卒業、同大学病院経て、平成 30 年 4 月より眼科学教室に入局させて頂きました、山田雄介と申します。

入局してから早くも 1 年が経過しました。若輩者である、私を主治医として来院してくださる患者様を思うと、恐縮でありつつも、一人として気の抜けない身の引き締まる思いで外来診療に臨んでまいりました。新米の私に出来ることは、多くありませんが常に心がけていた事があります。それは、患者様のことを常に自分の家族だと思って、真摯に診ることです。この気持ちを忘れずに、これからも日々精進する所存でございます。

最後に今年 1 年間なんとかやって来れたのも、一重に上級医先生方の手厚いご指導の賜物であると深く感謝しております。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

研究紹介 Research

網膜基礎研究

現在、眼科学教室の大学院生として高木教授、塩野先生ならびに多くの先生方の指導の下で糖尿病網膜症における細胞外Histoneについて研究を行っております。近年糖尿病網膜症は慢性炎症性疾患であるとの考えが広がりつつあります。

そこで私たちが着目したものがToll-like receptor(TLR)です。人の免疫システムは自然免疫と獲得免疫の２つのシステムから成り立っています。TLRは自然免疫に属し病原体関連分子パターンのみならず障害された細胞や組織から放出されるDamage associated molecular pattern（DAMP）を認識し炎症を惹起します。現在ヒトではTLRは10種類が見つかっており、中でもTLR４は各種臓器においてインスリン抵抗性を誘起させることが知られています。またTLR４は血管新生に関与しているとの報告があり、このことからTLR４は炎症を惹起することで糖尿病網膜症の進行に寄与している可能性が考えられました。

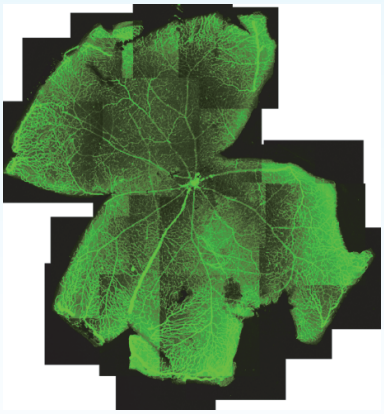
Histoneは通常核内では完全に不活性化していますが、感染や虚血などにより細胞がネクローシスに陥ることで細胞外へ放出され内皮細胞に影響を及ぼします。糖尿病網膜症では高血糖に伴う組織障害や血流障害によりその濃度は眼内において高くなっていることが予測されます。しかしながら細胞外ヒストンがTLR４を介してどのように網膜症に影響しているか未だ分っていません。そこで私の研究テーマは糖尿病網膜症におけるTLR４を介した細胞外Histoneの影響を検討する事です。

In Vitroの実験ではHuman umbilical vein endothelial cellsを用いてsiRNAにてTLR４をノックダウンし細胞外Histoneを添加しqPCRを用いて転写されたVEGFのmRNAの定量化を行いました。その結果Histone H２B,H３はTLR４を介してVEGF発現を増加させることが分かりました。

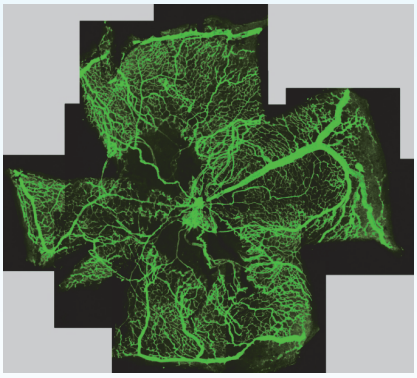
In vivoではTLR４ knock out miceを用いてOxygen induced retinopathy(OIR)モデルを作成し網膜血管形態の観察を行いました。その結果TLR４をknock outすることで血管形態異常を生じさせませんでした。引き続き実験を行い結果の論文化を進めていきます。

重城 達哉

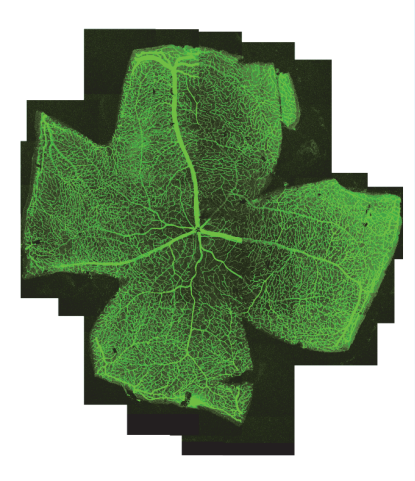
Wild CTL



Wild OIR



TLR4KO



緑内障基礎研究

Research Area

Mechanisms of Optic Nerve Damage in Glaucoma

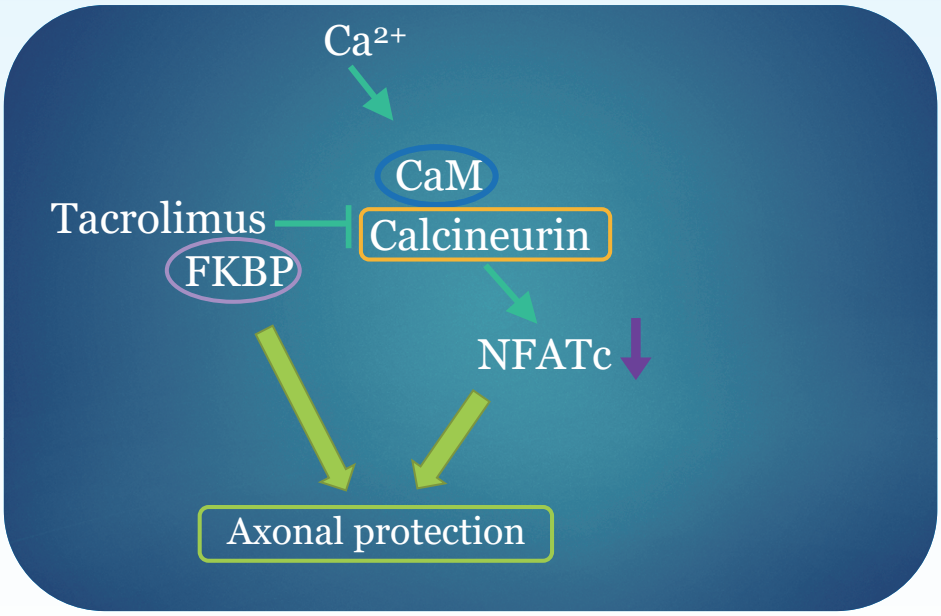
Molecular Neuroscience, Biology and Biochemistry of Optic nerve and Retinal Ganglion Cells

Description

Basic science research under Dr. Kitaoka’s direction focuses on understanding the molecular mechanisms of glaucomatous optic nerve damage. Our in vivo models include the TNF-induced optic nerve damage and the hypertensive glaucoma model in rats. TNF is associated with certain types of glaucoma. We are collecting optic nerve samples from rats and mice and analyzing gene and protein expression patterns that are altered in glaucomatous optic nerve and retina using DNA microarrays and proteomic technologies, as well as conventional molecular biology, biochemistry and genetic methods. As a rapid RGC loss model, NMDA model is also studied. Fluorogold labeling from superior colliculus is available in our lab. The other interests are microglial activity, the stress protein response, and autophagic flux in a glaucoma model. Gene and protein expression studies may lead to a better understanding of the regulatory events involved in axonal degeneration and RGC apoptosis, and provide molecular targets for the development of new therapeutic agents with neuroprotective effects in order to prevent or delay the loss of axon and RGC in glaucoma.

A recent our result is below schema. Dr. Tsukahara discovered that tacrolimus exerts axonal protection against TNF-induced optic nerve damage and that this protective effect is associated with inhibition of the calcineurin-nuclear factor of activated T cells pathway. This NFATc1 is located in astrocytes in optic nerve.

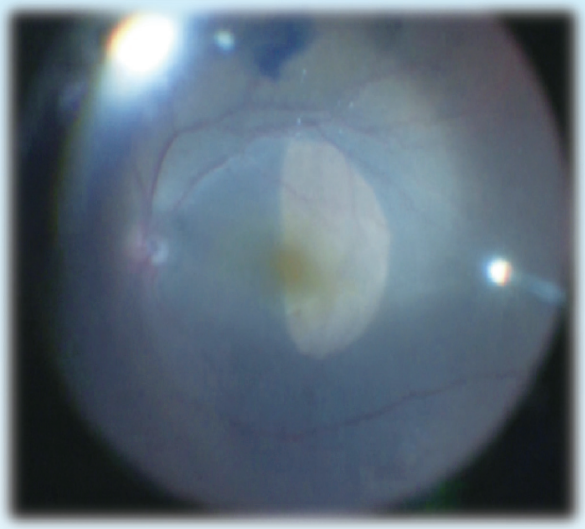
北岡　康史

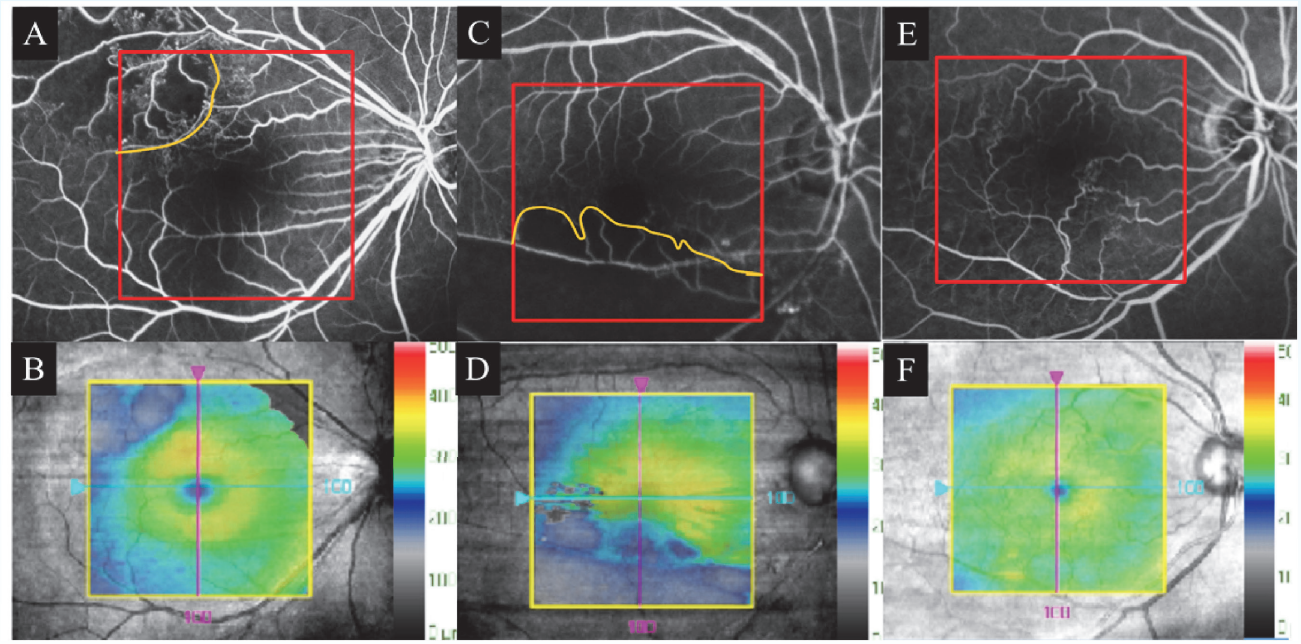


網膜臨床研究

本年度はここ数年進めてきていた研究成果が実り論文accept につながった 1 年でした。塩野先生を中心に行ってきた網膜静脈分枝閉塞症に関する研究では、抗 VEGF 薬の PRN 投与の治療成績と OCT イメージングを利用した治療・視力予後の報告ができました。また特発性黄斑円孔に対する新たな治療戦略として内境界膜の耳側のみ剥離する手法を報告いたしました。内境界膜剥離が及ぼす黄斑部形態の変化を軽減し術後 QOV を改善させる新たな治療戦略として現在、無作為前向き研究を進めており結果が非常に楽しみです。また大学院生の四方田先生が 27G 無縫合硝子体手術におけるトロッカー作成方法の比較検討をおこなった研究を報告しました。当院ではプロトタイプの段階から 27G システムを採用し 25G システムとの前向き比較研究でも成果を上げており今後も小切開システムの研究を牽引していきたいと考えております。また新たな試みとして硝子体術者ならではの 27G トロッカーを利用した眼内レンズ強膜内固定の研究を大学院生の重城先生が精力的に行っており現在論文作成中であります。このような研究の成果を日常臨床に還元し医療の質をあげられればと考えています。

向後　二郎

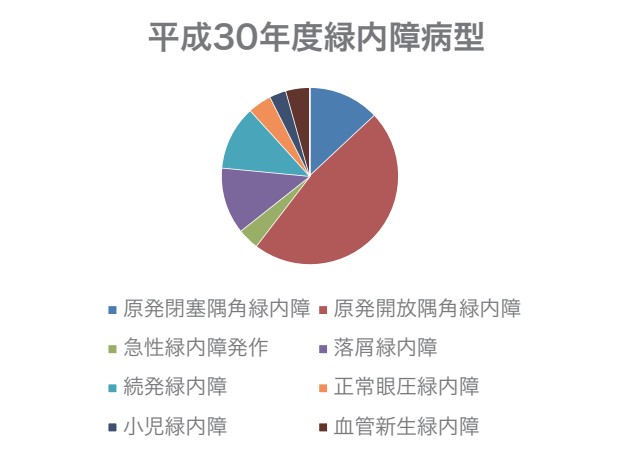




緑内障臨床研究

当院の緑内障外来には、小児緑内障から高齢者の落屑緑内障など幅広い年齢層かつ様々な緑内障病型の患者さまが来院されています。上野聰樹名誉教授が緑内障の中でも特に閉塞隅角緑内障の治療について多くの論文を発表され、治療法として隅角癒着解離術（gonio synechia lysis:GSL）を広め、GSL を施行するための器具として「上野式隅角癒着解離針」まで開発されたことは同窓会会員の先生方であればご存知かと思います。そんな背景もあり、当外来には緑内障の中でも、閉塞隅角緑内障の患者さまが比較的多い（13.0%）ということも特徴の一つかもしれません。

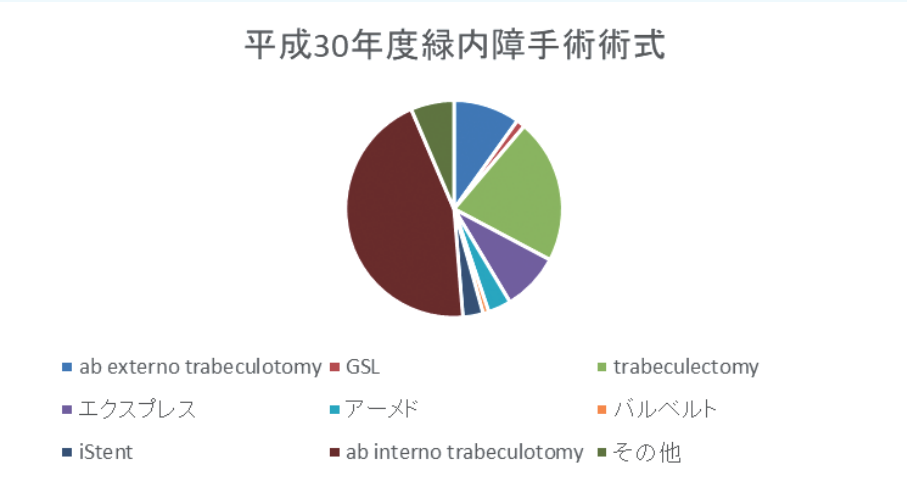
原発閉塞隅角緑内障といっても眼圧上昇の程度は症例により異なりますが、それは閉塞隅角が生じてからの期間に関係があるのではないかと考えております。例えば、術前30mmHg 以上の閉塞隅角緑内障症例には GSL のみでは効果が得られないこともあるかと思います。それゆえ、術前眼圧が 30mmHg を超えるような極めて眼圧コントロール不良である症例は、小生の場合 GSL と ab externo trabeculotomy を併用しております。昨今、ab interno trabeculotomy が MIGS として注目され広く行われるようになりましたが、ab externo trabeculotomy では強膜弁を作る際にシュレム管外壁を切除した部位からわずかながら濾過効果が生じますので術後の一過性高眼圧を抑えることが出来ると思われます。比較的手間のかかる術式だとは思いますが、有効な方法と考えておりましたので、この手術の成績を中村芽衣子助教とまとめてみました。（中村芽衣子，徳田直人ら 原発閉塞隅角緑内障に対する隅角癒着解離術併用外方線維柱帯切開術の術後長期成績 あたらしい眼科 35: 1139-1143 2018）



また、新潟で行われました日本緑内障学会では塚本彩香 任期付き助教が「同一症例における白内障手術併用眼内ドレーンと内方線維柱帯切開術の術後早期成績」について、豊田泰大 任期付き助教が「カルテオロール塩酸塩 / ラタノプロスト配合点眼液が眼表面に及ぼす影響」について発表してくれました。日本臨床眼科学会では山田雄介 任期付き助教が「リパスジル塩酸塩水和物点眼液の有効性と副作用について」発表してくれました。

今年も iStent をはじめ MIGS に関する報告や抗緑内障点眼薬についての報告もしていくつもりですので、学会などでお見かけした際にはお声をかけていただければ幸いに存じます。

徳田　直人



教育活動 Educational activities

BSL・初期研修・後期研修

・BSL は担当を決めて、手術助手、毎朝の診察を通して、眼科のことを学んでもらっています。またクルズスや日々の診察等を通して、国家試験を意識した教育も行っております。

・初期研修は手術助手や外来見学、また実際に診察を行うことで、診察技能を含め、より多くのことを学べるようにしています。またウエットラボで実践し、手術の楽しさや難しさを感じて、眼科に興味を持ってもらえるようにしています。

・後期研修では、経過が安定した患者の外来診療や手術助手を行い、基本的知識や技能の習熟をします。また難易度の低い白内障手術から執刀し、徐々にステップアップしていけるようにしています。

大坪　瑞季

教授回診

教授回診は毎週火曜日・金曜日の週２回、術後の患者様と入院加療中の患者様を中心に行っております。

診察所見をモニターに映し出しながら行うために教授をはじめにほかのチームの医局員と情報の共有を行っております。また学生や初期研修医、後期研修医が診察のポイントや診察技法を勉強できる大変貴重なタイミングです。また回診の後には教授から学生や初期研修医に対してのフィードバックも行っており、非常に有意義な時間を過ごせております。

関根　伶生

症例検討会、医局会、勉強会

毎週月曜日に外来診療・手術が全て終了した後に、医局員が全員集合し医学部本館眼科学医局にて医局会を行っています。手術症例の振り返りから始まり、抄読会や上級医によるレクチャー、造影カンファレンス、予演会など内容は実に多岐にわたります。入局１年目の後期研修医から、高木教授を含む医局員全員が順番に発表の場面があるので、週ごとにテーマとなる勉強内容も大幅に異なっており、限られた時間の中で幅広い知識を学ぶことが出来る貴重な機会となっています。

原　飛鳥

ウエットラボの紹介

マイクロサージジャリーに慣れ、白内障手術の技術向上を目的としています。初期・後期研修医が中心となり、時は BSL の学生も交えて、上級医の先生方のご指導のもと月に１－２回の頻度で練習に励んでおります。

山田　雄介

主催学会 Sponsorship

第 50 回 神奈川県眼科臨床談話会 (2018.1.8)

一般講演

➡同一症例における iStent® と内方線維柱帯切開術の比較
(教室　田中由香里先生)

➡増殖糖尿病網膜症に対する 25G,27G 小切開硝子体手術成績の比較
(教室　戸部洋佑先生)

➡急性網膜壊死に対する硝子体手術後に黄斑パッカーを生じた 1 例
(西部病院　上杉康雄先生)

➡角膜移植に上皮型角膜ヘルペスを生じた 2 症例
(多摩病院　松澤亜紀子先生)

特別講演 I

➡涙道内視鏡診療の新しい潮流
(後藤眼科院長　後藤 英樹先生)

特別講演 II

➡病態から考える加齢黄斑変性の最適治療
(琉球大学大学院医学研究科
医学専攻眼科学講座教授　古泉 英貴先生)

第8回 眼疾患研究会 (2018.1.18)

パネルディスカッション

➡ OCT を用いた網膜静脈閉塞症に対する視力・硝子体注射回数の検討

特別講演

➡眼内炎パーフェクトマネージメント
(日本大学医学部視覚科学系眼科学分野
診療教授　中静裕之先生)

第9回 聖マリアンナ眼科臨床フォーラム (2018.5.12)

特別講演 I

➡急増する近視人口とそれに挑む近視進行抑制法
(慶応義塾大学医学部　眼科学教室
鳥居秀成先生)

特別講演 II

➡糖尿病黄斑浮腫治療の実際
(東京医科大学八王子医療センター眼科教授
志村雅彦先生)

特別講演 III

➡角膜移植手術の予後と拒絶反応発生機序
(日本大学医学部視覚科学系眼科学分野主任教授
山上　聡先生)

第9回 眼科疾患研究会 (2018.6.21)

パネルディスカッション

➡緑内障手術のいろいろ

特別講演

➡最新の緑内障治療について

(埼玉医科大学　眼科講師　　庄司拓平 先生)

第4回 聖マリアンナ眼科シンポジウム (2018.9.1)

Update in マリアンナ

➡当院の黄斑円孔最新治療

～ Hemi temporal ILM peeling の有用性～

(教室　塩野　陽先生)

パネルディスカッション

➡白内障道場　(教室　佐々木寛季先生)

➡緑内障道場　(教室　塚本彩香先生)

特別講演 I

➡白内障手術のトラブルシューティング

(順天堂大学医学部附属静岡病院眼科教授

太田俊彦先生)

特別講演 II

➡ OCT を用いた緑内障診断

(東邦大学医療センター大橋病院眼科教授

富田剛司先生)

第 10 回 眼科疾患研究会 (2018.9.27)

Expert Panel Discussion

➡～ Cataract Surgery ～

(教室　北岡康史先生、松澤亜紀子先生、

徳田直人先生、塚原千広先生)

特別講演

➡白内障治療戦略

(北里大学医学部眼科学講師　　飯田嘉彦先生)

第 11 回 眼科疾患研究会 (2018.11.25)

Expert Panel Discussion

➡　(教室　重城達哉先生)

特別講演

➡神経変性をターゲットにした糖尿病網膜症管理

(神戸大学大学院医学研究科

外科系講座眼科学分野講師　　楠原仙太郎先生)

学会発表 Conference presentation

第 122 回　日本眼科学会総会
● 2018.4　東京

佐々木　寛季

今年の日眼は大阪国際会議場にて開催されました。6700名を超える参加がありとても盛り上がりのある会でした。私は、PPAR α活性化による血管内皮細胞における糖尿病網膜症抑制メカニズムの検討について報告をいたしました。学会中は網膜血管系の基礎研究や臨床研究を中心に勉強し、特に「網脈絡膜疾患アンメットニーズへのアプローチ」、「糖尿病網膜症：臨床応用を目指した基礎研究による新たな病態理解」の２つのシンポジウムは各エキスパートによる最先端の研究内容を知ることができ、大変興味深かったことを覚えています。学会で得られた知識や刺激を生かし、今後もより良い臨床、発表ができるよう精進して励んでまいります。

ARVO 2018
● 2018.4　Hawaii

塚原　千広

2018 年 4 月 29 日～5 月 3 日に晴天のハワイで ARVO が開催されました。眼科研究の発表を行う学会としては最大規模であり、世界各国の先生方がハワイに集い活発な議論が交わされていました。

大学院で研究のテーマとしている “Axonal protection by Tacrolims in TNF induced optic nerve degeneration” のポスター発表をしてきました。今回私は初めての国際学会ということで、海外の先生から英語での質問など慣れない場面も多くありましたが、臨床や基礎研究など多くのポスター、また医局員の先生の発表を聞くこともできとても有意義な学会となりました。

また、参加した医局員で食事にいくなど、短い期間ではありましたがハワイを満喫できました。このような貴重な機会を頂き感謝しています。これを弾みに、より一層研究に励んでまいります。

神奈川眼科学会
● 2018.5　横浜

関根　伶生

2018 年 5 月に横浜で発表いたしました。演題は「黄斑円孔に対する Hemi-temporal ILMpeelin の有用性」でした。

この発表が眼科医としての初めての学会発表でした。神奈川眼科学会は、他大学の先生方はもちろん、普段患者様をご紹介いただく先生方が多くいらっしゃっています。また規模としてもかなりの人数のがいらっしゃっており、かなり緊張致しました。しかし上級医の先生方にご指導いただきながら準備させていただいたおかげかなんとか発表を終えることができました。今後もたくさん発表していくことになると思われますが、非常にいい経験になったと思います。

また、他大学の先生がたの発表も非常に勉強になることが多く、非常にためになる一日でした。学会はとても勉強になる場だと再認識できたと思いますので、今後も学会に参加するために様々な発表もしていきます。

斜視弱視学会
● 2018.6　倉敷

畑　真由美

2018 年 7 月に岡山県倉敷市で第 74 回 日本弱視斜視学会が開催されました。今回「外傷性脳底動脈解離後に発症した上下斜視の１例」についてポスター発表させて頂きました。

今回の学会は台風の直撃により岡山県に大雨特別警報が発令されたため、２日目のプログラムは中止となってしまいましたが、１日目のポスター発表は無事終える事ができました。

斜視対するボトックス講習セミナーにも参加することができ、適応や投与方法などとても勉強になりました。２日目に予定されていた招待講演も後日 Web 配信され視聴することができました。来年度も参加して今後の診療に活かしていきます。

緑内障学会
●2018.9　新潟

豊田　泰大

2018年9月に新潟で開催された緑内障学会に参加させていただきました。

私は「カルテオロール塩酸塩/ラタノプロスト配合点眼液が眼表面に及ぼす影響」というテーマで一般口演で発表を行いました。

初めての学会発表で大変緊張しましたが、質疑応答も問題なく終えてほっとしたのを覚えています。

学会会場では薬物治療、手術治療、基礎研究と幅広い分野での発表があり、大変勉強になりました。

学会後は新潟のお料理、お酒に舌鼓を打ちました。

今後も患者様により良い医療を提供するため、学会に積極的に参加して知識・技術のブラッシュアップ、アップデートに励んでまいります。

臨床眼科学会
●2018.10　東京

四方田　涼

2018年度の第72回日本臨床眼科学会は10月11日～14日の4日間東京国際フォーラムにて開催されました。私は「網膜動脈閉塞症に対するカテーテル治療の有効性」という演題で、網膜動脈閉塞症におけるカテーテル治療の成績や安全性を報告しました。大学院で基礎研究を行っていたため約2年ぶりの学会発表であったので発表前は不安でした。しかし、質疑応答の際には色々な先生方から多くの質問を頂けました。今回の発表に際し指導して頂いた先生方のおかげもありとても充実した時間となりました。学会中は未熟児網膜のインストラクションコースに参加し、普段聞けないような抗VEGF薬の適用や、治療効果の話を伺うことができて大変有意義でした。今後も定期的に学会発表をしていき医局の功績を発表するとともに知識を深めてまいります。

EuCornea
●2018.10　ウィーン

松澤　亜紀子

9thEu Corneaは、ESCRSと同時期の9月21、22日の2日間オーストリアのウィーンで開催されました。ヨーロッパだけでなく、インドやエジプト、アメリカなど世界中の角膜疾患に従事している先生方が基礎的なことから角膜感染症、角膜移植、屈折矯正手術、涙液などについて熱く議論を交わしておりました。私は、アカントアメーバ角膜炎におけるポビドンヨードの有用性についてポスターセッションで発表いたしました。夜は、音楽の都であるウィーンの医師会館でコンサートと角膜移植に関するイベントに参加しました。ヨーロッパでは円錐角膜に対する新しい移植の術式が発表されており、大変刺激になりました。また、学会の合間にはHotel Sacherで本場のザッハトルテを頂き、頭もお腹も満たされた時間を過ごすことができました。今回の経験が今後の研究や診療に生つなげてゆければと思います。

第 24 回　糖尿病眼学会

●2018.10　東京

佐々木　寛季

2018 年 10 月 19 日～ 20 日に都市センターホテルにて第 24 回糖尿病眼学会が開催されました。私は血管内皮細胞に対する PPAR α活性化による糖尿病網膜症抑制メカニズムの検討について報告いたしました。糖尿病眼学会は日本糖尿病合併症学会と合同で開催されるため、基礎研究などに対しいつもの眼科医とは違う目線での質問が溢れていてとてもよい経験となりました。来年の第 26 回糖尿病眼学会総会は当院主催でホテル日航金沢にて開催予定となっています。全国規模の主催学会は初めての経験ですので、個人的にも良い発表ができるよう準備して挑んでいきます。

≪学会主催のお知らせ≫

第 26 回日本糖尿病眼学会総会を

2020 年 10 月 30（金）31（土）
金沢市（ホテル日航金沢、ポルテ金沢、
ANA クラウンプラザホテル金沢）
に於いて開催いたします。

皆様のご参加をお待ちしております。

AAO2018 Chicago

● 2018.12　シカゴ

向後　二郎

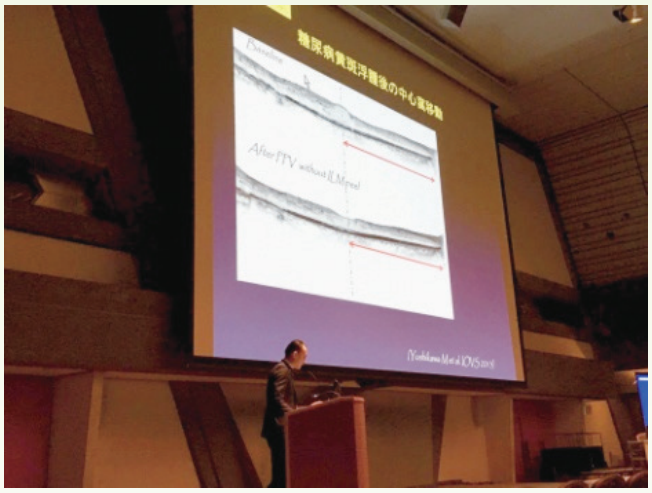
今年の AAO は演題がポスターに採択されたため Reina subspecialty からフル参加いたしました。Reina subspecialty は AMD や DME などの国際臨床治験の話が多く、サージカルでは難治性黄斑円孔に対する新しい治療法などがありましたが毎年行われる学会としては、あまり新しい内容は少なくあまり盛り上がりは感じませんでした（内容が頭打ちなのでしょうか？）ポスターセッションでは塩野先生からの仕事を引き続き黄斑円孔の新しい治療戦略について発表しましたが、海外の先生からも多く質問をいただいて有意義なディスカッションができました。大学院生の関根怜生先生も参加してもらい他大学の先生方との食事会など毎日忙しく充実した日を送ることができました。来年はサンフランシスコ !! なんとか演題を通したいところです。

網膜硝子体学会

●2018.12　京都

向後　二郎

国立京都会館で行われた硝子体学会に参加してきました。参加者は 1700 人と盛会であったようです。全体的な内容としては AI の開発状況や Heads-up の内容が多く今後もこれから発展していく分野だと感じました。海外特別講演では Arizona の Pravin U. Dugel 先生が網膜疾患に対する新規治療のお話しを中心にしていただきました。Dugal 先生は世界中の臨床治験に大きな影響力がある偉大な先生ですが、別の研究会で御挨拶させていただきましたが非常に気さくな先生という印象でした（銀行や飛行機会社まで運営しているというううわさも聞いてますが・・）。学会終了後も研究会などにも参加させていただき新たな出会いもあり非常に有意義な３日間でした。来年は長崎です！



WGC

●2019.3　メルボルン

豊田　泰大

2019 年３月にオーストラリア、メルボルンで開催された WGC（World Glaucoma Congress）に参加させていただきました。

初めての海外の学会でしたが、世界各国から緑内障を専門とされている眼科医が一挙に集う学会で、大変大きな刺激を受けました。

私は「Effects of carteolol hydrochloride / latanoprost combination ophthalmic solution on ocular surface」というテーマでポスター発表を行いました。

英語での発表は初めてでしたので、抄録、ポスター作製の段階から四苦八苦し、ご指導いただいた徳田先生には多大なご迷惑をおかけしましたが、発表・質疑応答もなんとかやり終えることができてよかったです。

会場ではまだ日本では未承認の「iStent inject」のウェットラボにも参加し、先端の低侵襲緑内障手術にも触れることができ、大変良い経験が出来ました。

学会会場以外にもオーストラリアの動物や自然に触れ合う時間もあり、毎日の食事もおいしくいただき大変有意義な４日間でした。

医局活動 Medical office activities

初期研修医歓送迎会

当科ではローテートしてくれた研修医の先生方に眼科の魅力を伝えるべく、毎回歓送迎会を開いています。日々の診療の話だけでなく入局の決め手や私生活のこと、気になる入局後のことなども話し、毎回盛り上がりをみせています。眼科は細隙灯など他の科と違う診察器具が多く研修医の先生方も最初はその使い方に戸惑っていますが、積極的に診察にも参加してもらうことで研修後半にはすっかりその場に溶け込んで診察しています。初期研修、歓送迎会を通して眼科の楽しさを伝えられたらと考えています。

藤田　直輝

第 16 回　同窓会学会

同窓会学会は毎年２月の日曜日に当院病院本館３階大講堂（院内チャペルの隣）で行っております。平成 30 年度は特別講演に横浜市立大学医学部眼科学講座 主任教授の水木信久教授をお招きし、「注意すべき炎症性眼疾患」についてご講演を賜りました。ぶどう膜炎の総論、そして数多くの症例について一つ一つ大変わかりやすく解説頂きました。これは筆者の個人的な感想ですが、実際の臨床においてぶどう膜炎の原因が判明することは約半数と言われていますが、水木教授が診ればその確率は格段と上がるのではないかと思えるような素晴らしい御講演でした。

また特別講演の前に、お披露目の意味も込めて新入局員の一般講演、そして大学院を卒業した医局員から研究成果の報告をさせていただきました。新入局の藤田直輝 大学院生から「ぶどう膜炎を契機に梅毒の再感染が判明した１例」、大坪瑞季 任期付き助教から「裂孔原生網膜剥離に対する 25-gauge と 27-gauge 硝子体手術の比較検討」、原飛鳥 任期付き助教から「当院における緑内障チューブシャント手術 (プレートのないもの : エクスプレス ®) の術後長期成績」について、そして平成 30 年度に大学院を卒業した四方田涼 助教から、硝子体手術についての研究（詳細はこちらをご覧ください ⇒ Comparative study of straight vs angled incision in 27-gauge vitrectomy for epiretinal membrane. Yomoda R, Sasaki H, Kogo J, Shiono A, Jujo T, Sekine R, Tokuda N, Kitaoka Y, Takagi H. Clin Ophthalmol. 2018 Nov 26;12:2409-2414.) について発表させていただきました。

学会終了後には真鍋同窓会会長から同窓会活動報告がありました。長きにわたりご尽力いただきました真鍋会長が今季限りで会長職を退き、次期会長として緒方裕治先生が満場一致で選出されました。(真鍋先生にはこの場を借りて心より御礼申し上げます。)

総会終了後、当大学関係者ならおなじみの中華料理店飛鳥で懇親会が行われました。現役医局員からすると普段なかなかお会いできない OB、OG の先生方とお話することが出来る、貴重な時間帯だと思っております。

第 17 回同窓会学会は、新元号になり令和２年２月 16 日（日）を予定しております。本学会は例年特別講演に著名な先生をお呼びしておりますが、身内の会ですので質問もしやすい会だと思います。各分野のエキスパートといわれる先生に直接質問できる、またとない機会だと思いますので、ぜひ多くの OB、OG の先生方のご参加をお待ちしております。前座を務めさせていただく現役医局員も OB、OG の先生方に恥ずかしくない報告が出来るよう、準備してまいりますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（文責 : 徳田直人）

忘年会

今年は表参道にて 2018 年 12 月 15 日に開催いたしました。

毎年、OBOG の先生方、研修医の先生方、コメディカルのスタッフの方など多くの方々にお集まりいただいております。１年を振り返りながら、情報交換をしたり、楽しい時間を過ごすことができました。

お忙しい中お集まりいただいた皆様、本当にありがとうございました。

大坪　瑞季

関連病院紹介 Affiliated hospital

聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院

〒 241-0811 横浜市旭区矢指町 1197-1
045-366-1111

平成 31 年度も昨年度同様、網膜硝子体手術と白内障手術を中心に、800 件以上の手術を行うことができました。診療体制にも大きな変化がなく、常勤医６名・非常勤医２名の体制を維持できています。ただし、個々の医師に目を向けると、出産･結婚･開業がそれぞれ１名ずつありましたので、少し変化のあった年度だったかもしれません。年度末には当科で何年も頑張ってくれた熊谷悠太先生と松原彩来先生が退職されました。当科にとってはおふたりの退職は痛手ですが、熊谷先生は当院の近くでご開業されましたので、今後病診連携を通じて関係を保てるのがうれしいです。新年度からはフレッシュな力を迎え、徐々に軌道に乗ってきています。

平成 31 年度の新たな展開として、初期研修２年目の医師を２名、のべ４か月間受け入れ、教育に当たったことが挙げられます。全国的に眼科を専門科目として選択する研修医の数が増えているのかどうか詳しくは知りませんが、私のまわりの医学部生や研修医のあいだでは眼科に対する関心は結構高いものがあるように思われます。それを反映しているのか、先日（平成 31 年３月頃）に日眼から届いたメールを見ると、日眼の会員は 2011 年以降漸増傾向のようです。実習で回ってきた医学部生と研修医には日本眼科啓発会議主催のキャンプのチラシを必ず配布して、眼科をアピールするようにしています。当科で研修した研修医のひとりが後期研修で眼科を専攻することを決めてくれました。その先生が入局するのは残念ながら他大学のようですが、眼科を選択してもらえたのはうれしく思います。当科を回る学生や研修医には科内の先生全員と接点が持てるようにしました。経験年数の異なる先生から、それぞれの立場での話を聞くことで、偏りのない科のイメージを持ってもらえると考えています。当科で実習をする学生・研修医には来年度もこのような雰囲気で対応していきたいと考えています。

臨床眼科学会で当科から四方田涼先生が網膜中心動脈閉塞症に対するカテーテル治療の報告を行いました。脳神経外科の協力がなければ施行できないこの治療法は、全国的にもほとんど施行されていないようで、口演後の質疑応答では活発な討議がなされました。今後も新しい話題を発信できるように努めたいと思います。

令和元年の開始とほぼ同時に、当院でもようやく電子カルテが稼働を開始します。来月から令和という現時点で、まだまだ未確定の部分が多く、院内の各部署であわただしい動きが見られます。電子カルテ導入直後は、患者さまへご迷惑をおかけする部分も多々あるかと思いますが、軌道に乗れば確実に今以上の利便性が保証されますので、引き続き当科へのご紹介をよろしくお願いいたします。

（文責：荒川　明）

川崎市立 多摩病院
（指定管理者　聖マリアンナ医科大学）

〒 214-8525 川崎市多摩区宿河原 1 -30-37
044-933-8111

今年度、多摩病院は４人中２人の医師が入れ替わりスタート致しました。新しく赴任された先生は、後期研修２年目の伊藤由香里先生と戸部洋佑先生のお２人です。当初、眼科経験の浅い２人の外来診療や白内障手術に不安を抱いていたのですが、患者様に真摯に向き合う姿や眼科診療に必要な知識を学ぶ姿はとても頼もしく感じました。また、当院における手術件数は約８００件と昨年度に比べ約１３０％も増加しました。これも、伊藤先生と戸部先生のギラギラしたやる気が表れたのではないかと思います。

手術内容として増加傾向にあるのは、林泰博先生と伊藤先生が担当している眼瞼手術です。様々な勉強会への参加、手術見学だけでなく、手術手技や手術機器などについて討論し切磋琢磨しております。また、外来診療においても戸部先生が、黄斑疾患に興味を持ち、積極的に抗 VEGF 薬の硝子体注射を行っております。

私の担当である角膜疾患においては、川崎だけでなく横浜方面からも多くご紹介を頂き、着実に移植件数も昨年度は 21 件と増加しております。これも、多くの患者さまをご紹介くださる近隣の先生方、同窓の先生方、林先生をはじめサポートしてくださる伊藤先生、戸部先生、いつも笑顔の外来のスタッフに感謝いたします。

さいごになりましたが当院は、川崎北部医療圏の地域支援病院としての正確な診断と治療だけでなく、優しさと笑顔の絶えない明るい環境で一人でも多くの方の光と笑顔を守れるよう頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

（文責：松澤亜紀子）

麻生総合病院

〒 215-0021　川崎市麻生区上麻生６-25- 1
044-987-2522

当院は、小田急線柿生駅から徒歩約５分という利便性の良い総合病院です。

眼科外来患者数は 1000 人 / 月 程度で疾患は白内障･緑内障・糖尿病網膜症等眼科全般の幅広い診療を行っております。外来は２診体制で、医師は聖マリアンナ医科大学・慈恵医科大学・日本医科大学より派遣され、最新の診断、治療を基礎として診療を行っております。外来処置室を備えており、抗 VEGF 硝子体内注射等を外来にて施行しております。手術は毎週月曜日･水曜日に実施しており、白内障手術を中心に 30 件 / 月程です。月曜日は聖マリアンナ医科大学眼科学教授高木先生に白内障手術執刀をお願いしております。

また当眼科には視能訓練士が４名おり、小児の遠視･乱視･近視の専門的検査、斜視・弱視の検査、訓練を行っております。

＜対応できる検査・処置＞

特殊検査

（眼球運動検査 [Hess チャート検査、大型弱視鏡など]・視野検査 [ゴールドマン視野計、ハンフリー視野計]・蛍光眼底造影検査 [FAG]・網膜光干渉断層計 [OCT])、

各種レーザー治療

（糖尿病網膜症 [PC レーザー]･後発白内障 [YAG レーザー]・緑内障 [SLT レーザー、LI(周辺虹彩切開術)、LGP(レーザー隅角形成術)]）

＜対応できる手術＞

白内障（難症例含む）、翼状片

上杉 康雄

＜外来担当表＞

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前 9:00 ～ 12:00	上杉 康雄 大坪 瑞季	上杉 康雄 大山 夏子	上杉 康雄 木村 純一	上杉 康雄 大山 夏子	野呂 隆彦 豊田 泰大	南 早紀子
午後 13:30 ～ 17:00	上杉 康雄 大坪 瑞季	上杉 康雄 大山 夏子	（休診） （手術）	上杉 康雄 大山 夏子	野呂 隆彦 豊田 泰大	（休診）

桜ヶ丘中央病院

〒 242-0024　大和市福田 1 - 7 - 1
046-269-4111

桜ヶ丘中央病院は小田急江ノ島線桜ヶ丘駅より徒歩３分、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院からは車で約 20 分のところにあります。平成 25 年４月に新築移転をしており、現在は病床数 171 床（一般病棟 45 床 / 障害者病棟 40 床 / 回復期リハ病棟 86 床）にて構成されています。大和市内の総合病院の眼科は少なく、地域の先生方、西部病院との連携を密に診療を行っております。

近隣の開業医の先生方からのご紹介のおかげもあり、白内障手術は月 30 ～ 40 件程度、硝子体手術は月１～２件程度、抗 VEGF 抗体の硝子体内注射は適宜施行しています。眼瞼の手術も月数件施行しています。また、緑内障手術も行っております。３ヶ月毎に髙木教授も硝子体手術をしにきてくださっています。規模は大きくはありませんが、的確で迅速な加療を心掛け、患者様により満足していただける診療を目指していきます。

佐々木　梢

稲城市立病院

〒 206-0801　東京都稲城市大丸 1171
042-377-0931

稲城市立病院は信頼とぬくもりのある医療提供を基本理念に掲げ、患者さんの立場に立った質の高い医療の提供を基本方針としている地域医療の中核病院です。

眼科は、常勤医１名、水曜日と木曜日の午後は非常勤医２名で診療にあたっています。診療内容は白内障、加齢黄斑変性、緑内障、糖尿病網膜症といった眼科一般診療のほか、三歳児検診精査および弱視斜視訓練・治療を行っています。水曜日を手術日とし、白内障手術（約 290 件 / 年）やその他手術に加え、加齢黄斑変性や糖尿病黄斑浮腫、網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫、病的近視における脈絡膜新生血管の症例には抗 VEGF 薬硝子体内注射（約 200 件 / 年）、各種レーザー治療を施行しています。

地域医療の中核病院としての役割を果たすべく、日々の眼科診療を行っています。

南 早紀子

同門会だより From the alumni association

オフの過ごし方を求めて

小樽市　大庭久貴

昭和 53 年（1978 年）から昭和 62 年（1987 年）夏まで聖マ医局に在籍し、その後、北海道小樽市の眼科クリニック（医療法人社団小樽中央眼科医院）で仕事をしております。今年 11 月には 67 歳となり、もう少し仕事を続けた後は出来ればお休みを頂き、スケッチブックとウィスキーを携え、好きな絵画を捜し各地の美術館めぐり、そして城めぐり、ついでに味めぐり、右膝が悲鳴をあげなければ木漏れ日の中のハイキングを夢見ています。最近のオフはカンディンスキーの絵を捜し大原美術館や、ポーラ美術館、宇都宮美術館などうろうろ。城は昨年、岡山の備中松山城を訪ね、奥深い山城で楽しい時を過ごしました。

掲載して頂いた絵の一枚はカンディンスキー、クレーのバウハウス時代の絵を基に遊び心で描いたものです。もう一枚は自宅から望む冬の小樽の夜明け前です。今年の冬は寒さが一段と厳しく、窓から見えた早朝の空の輝きが冷えた身心を温めてくれそうで、おもわず手が動きました。手前はカトリック小樽教会、正面の建物は小樽市立病院、協会小樽病院で右奥に石狩湾が望めます。小樽を訪れることがございましたらお気軽にお声をおかけください。

医局の思い出と近況報告

山本内科・眼科クリニック
山本登紀子

1978 年に入局し 9 年間在籍させて頂きました。入局した時の太根教授は 48 才。医局員は教授以下 10 名弱で、その内､研修医が 1 期先輩の小松先生と 2 期生の大庭先生と私の 3 名という小さな教室でした。何をするにも人手不足で、我々研修医を一日でも早く一人前に育てて、戦力にしなければならないような状況でしたので、診療も手術も何でも早くさせてもらえました。太根教授と准教授の清水先生と大橋先生が直接指導をして下さるという、臨床医を目指している私にとっては却って有難い環境でした。教授が寛容でしたので、医局は伸び伸びと自由な雰囲気でした。夕方医局に戻り、食事は皆で『増田屋』の出前か、たまに大橋先生を誘って『たまプラ』辺りに行ったものです。古いアルバムを捲ったら懐かしい写真がたくさん出てきました。これはテニス大会ですね。秘書の橋本さん (当時は狩野さん) も写っています。(写真 1,2) 振り返れば、思い出すのは楽しかった事ばかりです。

平成 30 年 12 月 1 日に開業 30 周年を迎えました。何事もなく無事にこの日を迎えるはずでした・・・・・・・・・が、実はこの時、開業以来の大ピンチを迎えていました。

北海道は 9 月 6 日未明に『胆振東部地震』が起きまして、札幌市内で東区は震度 6、清田区に次いで被害が大きい地域でした。クリニック周辺の道路は何キロにも亘り波打ち、至る所で陥没しました。医療器機の倒壊や破損はなく、最悪の事態は避けられたと一安心したのも束の間、翌日の朝クリニックに行くと床一面が海。地震で老朽化した水道管に亀裂が入り、少しずつ水が漏れていたようです。院長室、副院長室、職員の休憩室と倉庫が水浸しになり、さらに悪いことに階下のテナントにも水漏れが及びました。部屋の片付け、修復工事、水没した保管書類の乾燥は年末まで掛かり、階下のテナントへの賠償問題が決着したのは翌年の 2 月でした。そんな状況で 30 周年どころではなかったのですが､今では平常に戻り、元気に診療を続けています。

昔の小さな教室は、今や押しも押されもせぬ立派な教室になりました。これもひとえに上野教授、高木教授、そして教室の皆様の努力の賜物と感謝しております。これからも、眼科学教室が益々発展をされることをご祈念しております。

業績 Performance

(2018.1-12)

原著

1.Minami S, Nagai N, Suzuki M, Kurihara T, Sonobe H, Kamoshita M, Uchida A, Shinoda H, Takagi H, Sonoda S, Sakamoto T, Tsubota K, Ozawa Y.
Benefits of aflibercept treatment for age-related macular degeneration patients with good best-corrected visual acuity at baseline, Sci Rep. 2018 Jan 8;8(1):58. doi: 10.1038/s41598-017-18255-4.

2.Kitaoka Y, Tanito M, Yokoyama Y, Nitta K, Katai M, Omodaka K, Nakazawa T.
A Small Disc Area Is a Risk Factor for Visual Field Loss Progression in Primary Open-Angle Glaucoma: The Glaucoma Stereo Analysis Study. J Ophthalmol. 2018 Mar 21;2018:8941489. doi: 10.1155/2018/8941489. eCollection 2018.

3.Shiono A, Kogo J, Sasaki H, Yomoda R, Jujo T, Tokuda N, Kitaoka Y, Takagi H.
HEMI-TEMPORAL INTERNAL LIMITING MEMBRANE PEELING IS AS EFFECTIVE AND SAFE AS CONVENTIONAL FULL PEELING FOR MACULAR HOLE SURGERY. Retina 2018 May 9

4.Shiono A, Kogo J, Sasaki H, Yomoda R, Jujo T, Tokuda N, Kitaoka Y, Takagi H.
Optical coherence tomography findings as a predictor of clinical course in patients with branch retinal vein occlusion treated with ranibizumab. PLoS One. 2018 Jun 20;13(6):e0199552. doi: 10.1371/journal.pone.0199552. eCollection 2018.

5.Hayashi T, Oyakawa I, Matsuzawa A, Yuda K, Shimizu T, Tsuchiya A, Mizuki N, Kato N.
Descemet membrane endothelial keratoplasty using ophthalmic viscoelastic devices for eyes with laser iridotomy-induced corneal endothelial decompensation: Analysis of 11 eyes, Medicine (Baltimore). 2018 Jun;97(26):e11245. doi: 10.1097/MD. 0000000000011245. PMID: 29952990

6.中村芽衣子， 徳田直人， 塚本彩香， 北岡康史， 高木 均.
原発閉塞隅角緑内障に対する隅角癒着解離術併用外方線維柱帯切開術の術後長期成績． あたらしい眼科 2018;35（8）:1139-1143.

7.Sase K, Kitaoka Y, Tsukahara C, Takagi H.
Invovement of Beclin-1 in axonal protection by short-term hyperglycemia against TNF-induced optic nerve damage. Molecular Medicine Reports. 2018 Dec;18(6):5455-5460.

8.Yomoda R, Sasaki H, Kogo J, Shiono A, Jujo T, Sekine R, Tokuda N, Kitaoka Y, Takagi H.
Comparative study of straight vs angled incision in 27-gauge vitrectomy for epiretinal membrane. Clinical Ophthalmology. 2018;12:2409-2414. doi: 10.2147/OPTH.S183456. eCollection 2018.

総説・解説

1.Takagi Hitoshi
Novel strategy for Screening of Diabetic Retinopathy. Journal of Diabetes Investigation, 2018;9（4）:726-727.

2.北岡康史
緑内障セミナー 緑内障と腫瘍壊死因子 (TNF)， あたらしい眼科 2018;35（3）:357-358.

3.塩野 陽 , 高木 均 .
解説『Development and Validation of a Deep Learning System for Diabetic Retinopathy and Related Eye Diseases Using Retinal Images From Multiethnic Populations With Diabetes』 世界の医学誌から JAMA,MMJ,2018;14（3）:88-89.

4.向後二郎 , 高木　均 .
糖尿病網膜症のスクリーニング (内科診療との連携). 特集　糖尿病網膜症の最新情報を読み解く，　眼科 2018;60（9）:921-926.

学会発表

1.田中由香里 , 徳田直人 , 塚本彩香 , 塚原千広 , 榮 辰介 , 佐瀬佳奈 , 小島 香 , 北岡康史 , 高木 均
同一症例における iStent® と内方線維柱帯切開術の比較 , 第 50 回神奈川県眼科臨床談話会 ,2018 年 1 月 8 日 , 川崎市 .

2.戸部洋佑 , 重城達哉 , 四方田涼 , 佐々木寛季 , 塩野　陽 , 向後二郎 , 高木　均
増殖糖尿病網膜症に対する 25G,27G 小切開硝子体手術成績の比較 , 第 50 回神奈川県眼科臨床談話会 , 2018 年 1 月 8 日 , 川崎市 .

3.上杉康雄 , 山田瑛子 , 榮 辰介 , 末永華子 , 松原彩来 , 荒川 明 . 急性網膜壊死に対する硝子体手術後に黄斑パッカーを生じた 1 例 , 第 50 回神奈川県眼科臨床談話会 ,2018 年 1 月 8 日 , 川崎市 .

4.松澤亜紀子 , 林 孝彦 , 林 泰博 , 佐々木梢 , 松村綾子 , 高木 均 . 角膜移植に上皮型角膜ヘルペスを生じた 2 症例 , 第 50 回神奈川県眼科臨床談話会 ,2018 年 1 月 8 日 , 川崎市 .

5.北岡康史 , 徳田直人 , 塩野　陽 .(パネリスト)
OCT を用いた網膜表脈閉塞症に対する視力･硝子体注射回数の検討 , 第 8 回眼科疾患研究会 ,2018 年 1 月 18 日 , 川崎市 .

6.河野友里 , 松原彩来 , 畑　真由美 , 荒川　明 , 高木　均 .
強度近視性固定内斜視に対して上外直筋縫着術と内直筋後転術を同時施行した 1 例 ,　第 41 回日本眼科手術学会 ,2018 年 1 月 26 日 , 京都市 .

7.田中由香里 , 徳田直人 , 塚本彩香 , 榮　辰介 , 佐瀬佳奈 , 小島　香 , 北岡康史 , 高木　均 .
同一症例における白内障手術併用眼内ドレーンと内方線維柱帯切開術の比較 , 第 41 回日本眼科手術学会 ,2018 年 1 月 28 日 , 京都市 .

8.高木　均
専門医更新のための指定講演『糖尿病網膜症のサイエンスと治療応用』, 第 55 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 , 2018 年 1 月 21 日 , 新潟市 .

9.高木　均
特別講演　『糖尿病網膜症のエビデンスに基づく治療を考える』, Retina Clinical Meeting,　2018 年 1 月 27 日 , 仙台市 .

10. 重城達哉
白内障手術～自験例からの考察～,　第 10 回コルニアフェイコセミナー ,　2018 年 2 月 8 日 , 横浜市 .

11. 高木　均
特別講演　『糖尿病網膜症のサイエンスと治療 up date』, 第 6 回筑後糖尿病眼合併症フォーラム ,2018 年 3 月 9 日 , 久留米市 .

12. 塩野　陽
Investigate the possibility of PPAR alpha in treatment for diabetic retinopathy,　第 122 回日本眼科学会総会シンポジウム 1　網脈絡膜疾患アンメットニーズへのアプローチ ,　2018 年 4 月 19 日 , 大阪市 .

13. 北岡康史 , 塚原千広 , 佐瀬佳奈 , 高木　均 .
SIRT 1　activator の TNF 誘発視神経障害での保護効果とオートファジー , 第 122 回日本眼科学会総会 ,2018 年 4 月 19 日 , 大阪市 .

14. 塚原千広 , 北岡康史 , 佐瀬佳奈 , 高木　均 .
TNF 誘発視神経障害におけるタクロリムスの軸索保護と NFAT, 第 122 回日本眼科学会総会 ,　2018 年 4 月 19 日 , 大阪市 .

15. 重城達哉 , 佐々木寛季 , 塩野　陽 , 向後二郎 , 高木　均 .
糖尿病網膜症における TLR４を介したヒストンＨ２Ｂの影響に関する検討 , 第 122 回日本眼科学会総会 ,　2018 年４月 19 日 , 大阪市 .

16. 佐々木寛季 , 四方田　涼 , 塩野　陽 , 松村欣宏 , 田中十志也 , 酒井寿郎 , 高木　均 .
血管内皮細胞における PPAR α活性化による糖尿病網膜症抑制メカニズムの検討 , 第 122 回日本眼科学会総会 , 2018 年４月 19 日 , 大阪市 .

17. Kitaoka　Y, Sase　K, Tsukahara C,Takagi　H
Axonal protection by a small molecule SIRT 1 activator, SRT2104, with alteration of autophagy in optic nerve degeneration. 2018 annual meeting of The Association for Research in Vision and Ophthalmology,　2018.4.29. Hawaii

18. Sase　K, Kitaoka　Y, Tsukahara C,Takagi　H
Akebia Saponin D prevents axonal loss against TNF-induced optic nerve damage with autophagy modulation. 2018 annual meeting of The Association for Research in Vision and Ophthalmology,　2018.4.29. Hawaii

19. Tsukahara C, Kitaoka　Y, Sase　K, Takagi　H
Axonal protection by tacrolimus with inhibition of NFATc 1 in TNF-induced optic nerve degeneration. 2018 annual meeting of The Association for Research in Vision and Ophthalmology,　2018.4.29. Hawaii

20. Sasaki H, Jujo T , Shiono A, Kogo J, Takagi H.
Hemi-temporal internal limiting membrane peeling as a safety and useful procedure for macular hole surgery. 2018 annual meeting of The Association for Research in Vision and Ophthalmology,　2018.4.29. Hawaii

21. Kogo J, Shiono A, Sasaki H, Jujo T , Takagi H
Retinal thickness changes and fovea migration in eyes with idiopathic macular hole after vitrectomy with hemi-temporal internal limiting membrane peeling. 2018 annual meeting of The Association for Research in Vision and Ophthalmology,　2018.4.29. Hawaii

22. Shiono A, Sasaki H, Takagi H.
Selective PPAR alpha modulator, pemafibrate as a novel therapeutic target for diabetic retinopathy. 2018 annual meeting of The Association for Research in Vision and Ophthalmology,　2018.5.3. Hawaii

23. Jujo T, Sasaki H, Shiono A, Kogo J, Takagi H.
Prospective evaluation of morphological and functional change after intravitreal ranibizumab therapy for macular edema secondary to branch retinal vein occlusion. 2018 annual meeting of The Association for Research in Vision and Ophthalmology,　2018.5.3. Hawaii

24. 高木　均
専門医更新のための指定講演『糖尿病網膜症の病態と診療のポイント』,　第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会 ,2018 年５月 25 日 , 東京都 .

25. 山田瑛子 , 上杉康雄 , 榮　辰介 , 末永華子 , 松原彩来 , 荒川　明 .
黄斑前出血が受診契機となったサルコイドーシスの一例 , 第 10 回神奈川眼科学会 ,2018 年５月 27 日 , 横浜市 .

26. 北岡康史 , 徳田直人 , 塚原千広 , 佐瀬佳奈 , 高木　均 .
アーメド緑内障バルブインプラント手術の短期成績 , 第 10 回神奈川眼科学会 ,2018 年５月 27 日 , 横浜市 .

27. 関根伶生 , 塩野　陽 , 向後二郎 , 佐々木寛季 , 四方田　涼 , 重城達哉 , 高木　均 .
特発性黄斑円孔に対する hemi-temporal ILM peeling の有用性 , 第 10 回神奈川眼科学会 ,2018 年５月 27 日 , 横浜市 .

28. 林　孝彦 , 清水俊輝 , 松澤亜紀子 , 水木信久 , 加藤直子 .
当院における深層層状角膜移植術 (DALK) の治療成績の検討 , 第 10 回神奈川眼科学会 ,2018 年５月 27 日 , 横浜市 .

29. 高木　均
『糖尿病網膜症の病態に基づく最近の診断と治療法の進歩』,
第４回 SMU 糖尿病セミナー ,2018 年６月２日 , 横浜市 .

30. 庄司拓平 , 松澤亜紀子 , 徳田直人 , 向後二郎 , 塚原千広 .
緑内障手術のいろいろ， Expert Panel Discussion,
第９回　眼科疾患研究会 , 2018 年６月 21 日 , 川崎市 (本学)

31. 畑　真由美 , 根岸貴志 , 豊田泰大 , 酒見郁圭 , 村上　昌 ,
高木　均 .
外傷性脳底動脈解離後に発症した上下斜視の１例 , 第 74
回　日本斜視弱視学会総会 ,2018 年６月 20 日 , 倉敷市 .

32. 徳田直人
本邦における緑内障インプラント手術〜光と影〜 ,
第３回 OWL 勉強会 ,2018 年６月 23 日 , 東京都 .

33. 北岡康史
Ithenticate 時代の学位論文 (英文) の書き方 ,
第 78 回 MRC,　2018 年６月 28 日 , 川崎市

34. 高木　均
黄斑円孔の低侵襲手術のすすめ， Japan　Macula
Club　第 20 回学術講演会 , 2018.8.19, 蒲郡市

35. 向後二郎
特別講演『サージャンのための黄斑イメージング』,
第 11 回キンキ -Vits の会 , 2018 年８月 18 日 , 神戸市

36. 塩野　陽
当院の黄斑円孔最新治療　〜 Hemi temporal ILM
peeling の有用性〜　Update in マリアンナ， 第４回聖
マリアンナ眼科シンポジウム ,2018 年９月１日 , 東京都

37. 高木　均
教育講演『老後の最高の生き方のために一高齢者の目の健
康維持に向けて』 第 68 回日本体質医学会総会 ,2018 年
９月２日 , 横浜市

38. 北岡康史
『Retinal ganglion cell biology』 第 29 回日本緑内
障学会 Asia - Japan Symposium “New Insights of
Glaucoma”, 2018 年９月 14 日 , 新潟市

39. 塚本彩香 , 徳田直人， 伊藤由香里， 塚原千広， 佐瀬佳奈 ,
小島 香， 北岡康史， 高木　均 .
iStent vs. ab interno trabeculotomy 同一症例における
白内障手術併用眼内ドレーンと内方線維柱帯切開術の術後
早期成績、第 29 回日本緑内障学会 ,2018 年９月 14 日 ,
新潟市

40. 豊田泰大， 徳田直人， 塚本彩香 , 塚原千広 , 佐瀬佳奈 ,
小島　香， 北岡康史， 高木　均 .
Effect of Carteolol/Latanoprost fixed combination
on ocular surface カルテオロール塩酸塩 / ラタノプロス
ト配合点眼液が眼表面に及ぼす影響， 第 29 回日本緑内障
学会 ,2018 年９月 15 日 , 新潟市

41. 徳田直人
『MIGS における iStent の位置づけ』 第 29 回日本緑内障学
会　モーニングセミナー 4, 緑内障手術最前線ー MIGS に
よる早期アプローチの実践ー， 2018 年９月 16 日 , 新潟市

42. Matsuzawa A, Hyashi Y, Sasaki K, Tanaka Y, Tobe Y,
Takagi H.
Four cases of Initial Acanthamoeba keratitis treated
with Polyvinyl alcohol iodine,　9th EuCornea
Congress Vienna2018, 2018.9.21, Vienna.

43. 塩野　陽
『黄斑円孔閉鎖の生物学的考察と新たなる内境界膜治療』
第 72 回日本臨床眼科学会 シンポジウム２黄斑疾患の治
療 : 未来に向ってのパラダイムシフト , 2018 年 10 月 11
日 , 東京都

44. 松澤亜紀子
『色付きコンタクトレンズ徹底検証』 第 72 回日本臨床眼
科学会 シンポジウム 13 進化するコンタクトレンズ徹底検
証 , 2018 年 10 月 12 日 , 東京都

45. 松澤亜紀子 , 高　静花 , 東原尚代 , 重安千花 , 月山純子
コンタクトレンズ診療　～ビギナーズナビ～　第 72 回日本臨床眼科学会　インストラクションコース , 2018 年 10 月 11 日 , 東京都

46. 佐々木寛季 , 関根伶生 , 重城 達哉 , 四方田　涼 , 塩野　陽 , 向後二郎 , 高木　均 .
増殖糖尿病網膜症における 25G,27G 小切開硝子体手術成績の比較 , 第 72 回日本臨床眼科学会 ,2018 年 10 月 11 日 , 東京都

47. 四方田　涼 , 河野友里 , 熊谷悠太 , 小野寺英孝 , 荒川　明 .
網膜動脈閉塞症に対する局所ウロキナーゼ動注療法の有効性 , 第 72 回日本臨床眼科学会 ,2018 年 10 月 13 日 , 東京都

48. 関根伶生 , 重城 達哉 , 四方田　涼 , 佐々木寛季 , 塩野　陽 , 向後二郎 , 高木　均 .
硝子体手術に多焦点眼内レンズを併用した症例の当院における術後成績 , 第 72 回日本臨床眼科学会 ,2018 年 10 月 13 日 , 東京都

49. 山田雄介 , 徳田直人 , 塚本彩香 , 豊田泰大 , 塚原千広 , 佐瀬佳奈 , 小島　香 , 北岡康史 , 高木　均 .
リパスジル塩酸塩水和物点眼液の有効性と副作用について , 第 72 回日本臨床眼科学会 ,2018 年 10 月 12 日 , 東京都

50. 親川　格 , 湯田健太郎 , 加藤直子 , 清水俊輝 , 松澤亜紀子 , 湯田兼次 , 林　孝彦 .
DMEK における移植片の偏位方向と角膜内皮細胞密度の検討 , 第 72 回日本臨床眼科学会 ,2018 年 10 月 11 日 , 東京都

51. 佐藤尚人 , 向後二郎 , 米田一仁 , 大澤俊介 , 平形明人 .
硝子体手術クエスチョンバンク　Vol.1 第 72 回日本臨床眼科学会　インストラクションコース , 2018 年 10 月 13 日 , 東京都

52. 高木　均
糖尿病網膜症治療の現状と今後の展開 ,　合併症学会シンポジウム 1, 糖尿病合併症としての臓器障害～克服に向けて～ 第 24 回日本糖尿病眼学会 ,　2018 年 10 月 19 日 , 東京都

53. 塩野　陽
全身介入から明らかになった網膜症の分子機構 , 眼学会シンポジウム (眼科) 糖尿病網膜症治療の近未来　第 24 回日本糖尿病眼学会 ,　2018 年 10 月 19 日 , 東京都

54. 佐々木寛季 , 四方田涼 , 塩野　陽 , 高木　均
PPAR α活性化による血管内皮細胞における糖尿病網膜症抑制メカニズムの検討 ,　第 24 回日本糖尿病眼学会 , 2018 年 10 月 20 日 , 東京都

55. Kogo J, Shiono A, Sasaki H, Takagi H
Retinal thickness changes and fovea migration in eyes with idiopathic macular hole after vitrectomy with hemi-temporal internal limiting membrane peeling. 2018　American Academy of Ophthalmology,　2018.10.28. Chicago

56. 高木　均
特別講演 『　黄斑手術の最近の話題　』,　第 66 回山口眼科手術懇話会 ,　2018 年 11 月 10 日 , 山口 .

57. 関根伶生
診断に難渋した眼内リンパ腫の一例 ,　第 11 回眼科疾患研究会　Expert Panel Discussion(パネリスト　荒川　明 , 北岡康史 ,　徳田直人 ,　向後二郎 ,　松澤亜紀子),　2018 年 11 月 15 日 ,　川崎市 .

58. 高木　均
硝子体オペでのレンズ選択および情報交換会 ,　第 3 回九州・沖縄エリア硝子体サージャン勉強会 ,　2018 年 11 月 17 日 ,　沖縄県宜野湾市 .

59. 高木　均
糖尿病網膜症のエビデンスに基づく治療 ,　第 13 回　埼玉県眼科フォーラム ,　2018 年 12 月 2 日 , さいたま市 .

60. 向後二郎 , 塩野　陽 , 佐々木寛季 , 重城 達哉 , 関根伶生 , 高木　均
特発性黄斑円孔に対する hemi-temporal ILM peeling における中心窩位置と網膜厚の変化 ,　第 57 回日本網膜硝子体学会総会 ,　2018 年 12 月 7 日 , 京都市

編集後記 Editor's note

前号の編集後記には「医局長１周年」と書いておりましたが、早いもので今号が出る頃には小生も既に医局長の任期を終了しているかと思います。OB,OG の先生方には患者紹介、逆紹介の受け入れのみならず、大学主催の学会にご参加頂いたり、と大変お世話になりました。この場を借りて篤く御礼申し上げます。次期医局長は…というと向後二郎 講師が再任となりました。先日、神奈川県眼科医会主催の医局長会に参加した際に聞いたところ、医局長は各施設によって中堅からベテランの医師が務めたり、比較的若い医師が担当したりとまちまちのようです。当医局の医局長は前者に当てはまる訳ですが、大学病院内の中堅医師が次々と退局してしまう今日この頃、医局長を担当できる医局員が少ないということが医局内での問題です。しかし平成 30 年度も５名の新入局員を迎え、平成 31 年４月からはさらに４名が加わり、医局内には若いエネルギーで満ち溢れております。この若いエネルギーとともに我々中堅組は時には病棟長、時には医局長として医局をけん引していかねばならないと思っております。

そんな中、平成 31 年度の入局者から、日本専門医機構が「シーリング」と呼んでいる、いわゆる定員制が導入されてしまいました。前号の編集後記では「新入局員の争奪戦がさらに過熱する」と書きましたが、その逆で、初期臨床研修医よる専攻医椅子取り合戦のようなことが生じ始めました。後期研修医が都会に集中しないようにするための措置ですが、眼科医になりたかったのに眼科医になることをあきらめ、他科の都会の大学に就職したという話も聞かれ、果たして本当に適切な方法なのか正直疑問が残るところです。しかしながら当教室では引き続き研修医教育をこれまで以上に力を入れ、新入局員たちが数年後に当教室を選んでよかった、と思ってもらえるよう大切に指導してまいります。

State Library of Victoria

この ANNUAL REPORT ですが、高木教授の方針で、文字通り毎年発行していくことになっています。OB,OG の先生方やスタッフの皆様に恥ずかしくない年次報告が出来るよう、今後も努力してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

（文責：徳田 直人）

●発行　聖マリアンナ医科大学
眼科学教室　同窓会
●編集　徳田直人，橋本真理子
●印刷所　コジマ印刷株式会社

聖マリアンナ医科大学　眼科学教室
〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2-16-1
TEL 044-977-8111
http://www.marianna-u.ac.jp